

| | |
|-------------|----------|
| 群 教 セ | G01 - 03 |
| | 平18.234集 |

文章の展開に即して的確に要約する力 をはぐくむ指導の工夫

— 「ステップアップカード」「要約シート」の活用を通して —

特別研修員 宮前 嘉則 (桐生市立境野中学校)

《研究の概要》

本研究は、説明的な文章を読むことの学習において、「ステップアップカード」や「要約シート」を活用させることで、文章の展開に即して的確に要約する力をはぐくもうとするものである。「ステップアップカード」で要約する際の注意点を小段階で意識し、「要約シート」で文章全体の構成をとらえる。これらを組み合わせることで、読み取りの過程を実感させ、文章全体の構成を考えながら、的確に要約する力を身に付けていこうとした。

○ はじめに

本校の生徒は、学級新聞を定期的に発行したり、短学活のスピーチや弁論大会で自分の意見を進んで発表したりと、自己表現しようとする場面が多い。しかし、説明的な文章の学習で、文章の内容に関する自分の意見を求められる場合、進んで発表する生徒は、他の活動の時間に比べて少ない。アンケートによると、説明的な文章の学習を楽しんでいる生徒は少なく、中でも要約や要旨を考える学習に抵抗を感じていることが分かった。文章の内容が正確に読み取れなければ、自分の意見をもつことも難しくなるであろう。

また、平成16年度学力向上フロンティアスクールの研究で、「説明的な文章を読み、自分の意見をもつ」ことをねらいとした学習活動の実践を行った。その際、言語感覚を豊かにするためには文章の内容を正確に読み取る力が必要であることが明確になったが、文章を読み取る方法をどのように身に付けさせるかが課題となった。

今まで行ってきた説明的な文章の学習では、教材文の内容を教えることが中心になってしまい、キーワード探しや要約の方法を、生徒任せにしてしまうことが多かった。文章を読み取る方法の指導があいまいであったことが、正確に読み取る力を不十分なものにしてしまったと考える。

中学校学習指導要領国語「C読むこと」の第1学年の指導事項イには「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること」とある。要約する力は、内容や要旨の理解を確かな

ものにするために必要な力であり、その力をはぐくむためには、文章の展開に即して文章の内容を正確にとらえることが大切である。そこで、キーワード、段落相互の関係や役割に着目し、文章の展開に即して内容を読み取り、的確に要約する力を身に付けていこうと考えた。

本研究では、文章の展開に即して的確に要約する力をはぐくむために、説明的な文章の学習を通して、「ステップアップカード」と「要約シート」を活用することにした。「ステップアップカード」は、ヒントの内容を順次ステップアップさせることで、要約する際の注意点を小段階で意識させる。このカードの活用により、身に付けた力を利用したり、次のステップに挑戦したりしようとする意欲も高められると考えた。

また、「要約シート」には、段落構成図を確認して、それぞれの「ステップアップカード」を貼っていく。文章の構成を意識することで、段落相互の関係や役割を考える必要性も理解できる。

さらに、「要約シート」と「ステップアップカード」との組み合わせにより、文章を読み取る過程が一目で分かり、考えの深まりを実感することになる。このことは、教材文の内容理解だけにとどまらず、さまざまな文章を読む際に役立つものになると考える。

以上のことから、説明的な文章を「読むこと」の学習において、「ステップアップカード」「要約シート」を活用することが、文章の展開に即して的確に要約する力をはぐくむために有効であると考え、本主題を設定した。

I 研究の概要

1 基本的な考え方

文章の展開に即して的確に要約することについて

文章の展開に即して的確に要約するとは、文章の内容を正確に読み取り、筆者の意図・要旨を踏まえ、できるだけ簡潔にまとめることである。文章の内容を正確に読み取るためには、キーワードに着目した読み取りが必要となる。ここでいうキーワードとは、文章中に繰り返し使われている語句や、形式段落を意味段落にまとめる際に手がかりとなる語句であり、文章の内容をとらえる上で、重要な役割をする語句のことである。文章を読み取る際、キーワード探しを繰り返し行うことは、文章の内容を正確にとらえ、的確な要約することにつながる。

筆者の意図や要旨を踏まえ、表現をできるだけ簡潔にまとめるためには、キーワードを含むキーセンテンスを中心に、字数を意識し、修飾している言葉の必要の有無を考えることになる。つまり、文章を読む際に、文章の中心の部分と付加的な部分の読み分けをするなど、細部にまで注意を払うことになる。

このように要約する際に意識すべきことを、本文中に印を付けたり、ワークシート上に書き込んだりして、読み取りの能力を身に付けさせることは、生徒任せに行ってきた読み取り方を改善することになる。

2 研究の内容及び方法

(1) 研究の内容

① 研究の手立て

ア 「つかむ」過程において、何度も出てくる言葉や段落のはじめの言葉、指示語や接続語などを意識し、文章の展開をとらえることで、キーワードを探したり、段落相互の関係や役割を考えたりすることが重要であることを再確認し、要約の際に意識していく必要があることに気付くようにする。

イ 「追求する」過程において、要約する能力をスモールステップで積み重ねる「ステップアップカード」を提示して、それぞれの意味段落の要約をしていくことで、キー

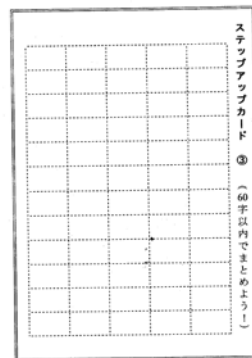
ワードや段落相互の関係や役割を意識しながら要約する力を身に付けるようにする。

ウ 「まとめる」過程において、意見交流会で互いの要約をアドバイスし合ったり、「ステップアップカード」を貼り合わせた「要約シート」を活用して、学びの過程を振り返り、要約する際の注意点を考えたりすることで、文章の内容に即して的確に要約できる力を身に付けるようにする。

② 「ステップアップカード」「要約シート」の活用について

的確な要約をするために、「ステップアップカード」と「要約シート」を活用することにした。

「ステップアップカード」は、①キーワードに着目する、②キーセンテンスに着目する、③文の中心の部分と付加的な部分の読み分ける、④制限字数を考える、というようなカードを用意し、ス



モールステップで要約する力を身に付けさせる。これらにより、的確に要約をする能力が段階的に積み重ねられ、深まりが期待できる。また、提示しやすい形なので、意見交流会においても、中央に置いて全員で見ることができ

き、アドバイスもしやすくなるため、いろいろな意見を吸収した後、推敲することができる。その上、各生徒の学びに応じて、生徒への支援も行いやすくなる。

「要約シート」は、それぞれの「ステップアップカード」を貼り合わせる。全体の構成に応じて、「はじめ」「なか」「終わり」の3枚を配布し、最終的につなげて一枚のシートにする。問題提起と筆者の主張を先に押さえ、大きな枠をつかむことで、具体的な事例がどのように書かれているかを考えやすくするため、「はじめ」「終わり」「なか」の順に要約を行う。最終的に、「ステップアップカード」と「要約シート」を組み合わせることで、要約することと段落相互の関係や役割を意識することのつながりが理解できる。また、文章を読み取る過程が一目で理解でき、考えの深まりや学習の成果を実感することで、生徒の学習意欲の高まりが期待できる。

(2) 研究の方法

① 授業実践計画

| | | | |
|-----|----------------------|------|-----------------|
| 対 象 | 桐生市立境野中学校 1年1組 35名 | 実施期間 | 平成18年10月下旬（6時間） |
| 題材名 | 「未来をひらく微生物」（光村図書 1年） | | |

② 抽出生徒

| | |
|----------|---|
| A (女) | 説明的な文章を読む際、文章構成やキーワードのとらえ方があいまいであり、文章の内容が正確に理解できていない。言葉に意識して文章構成を考えさせた上で、形式段落を要約することでキーワードについての理解を定着させ、的確な要約をするために役立つ語句であることに気付かせたい。 |
| B (男) | 説明的な文章を読むことを得意とし、キーワード探しや文章構成のとらえ方について理解している。ただ、要約の学習に苦手意識をもっているため、スモールステップで要約する方法を理解させる中で、的確な要約をする方法を見付けさせ、自分なりに考えた言葉で分かりやすくまとめさせたい。 |

(3) 題材の考察と目標、評価規準

| | | | |
|------------------|--|--|---|
| 考 察 | <p>本題材「未来をひらく微生物」は、普段その存在を気にすることのない微生物について、その働きと、それがもたらす環境改善への大きな可能性を述べ、生命への新しい視点をもたせる説明的な文章である。この文章は18の段落からできており、大きく3つのまとまりに分けられる。微生物とその働きについて述べる「序論」、環境問題の解決策として、微生物を利用する2つの試みについて述べる「本論」、そして、筆者の主張を述べる「結論」というはっきりとした構成になっている。さらに、「まず」「そこで」「だが」などの接続語、「このように」「これらの」といった指示語が、段落のはじめに使われているので、それらの言葉に着目することで、問題提起の内容なのか、具体的な例の提示なのか、段落相互の関係や役割がつかみやすく、文章の構成が理解しやすい。</p> <p>また、「微生物」「分解」「生分解性プラスチック」「環境」などの重要語句が文章中に繰り返し使われているので、キーワードとして見付けやすく、「病気の人に、栄養のある食事をとらせ、……と似ている。」「病気にかかったとき、……と似ている。」というように微生物による環境回復の仕組みを人間の健康回復の仕組みにたとえるなど、内容をより具体的に分かりやすく説明するための工夫が随所に書かれているので、生徒が日常生活に置き換えてイメージすることができる。</p> | | |
| 目 標 | キーワードや段落相互の関係に着目して文章の構成を正確にとらえ、「ステップアップカード」や「要約シート」の活用や意見交流をすることで、文章の展開に即して的確に要約する方法を考える。 | | |
| 評 価 規 準 | 国語への関心・意欲・態度 | 読 む 能 力 | 言語についての知識・理解・技能 |
| | ○学習目標をつかみ、本文を文章構成に注意して読み、よりよい要約する方法を考えようとしている。 | ○文章の展開に即して、文章の構成やキーワードやキーセンテンスを正確にとらえ、適切な言葉を選択したり内容を整理したりして、的確に要約している。 ○要約する時に注意する点について、具体的な方法を見付け出し、自分なりに考えた言葉で分かりやすくまとめている。 | ○接続詞や指示語、接続詞と同じような働きをもつ語句に注意し、段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。 |

(4) 指導と評価の計画(全6時間)

| 時間 | 学 習 活 動 | 学 習 へ の 支 援 | 評 価 項 目 |
|----|---|---|---|
| 1 | ○初読の感想から大まかな内容をつかみ、文章全体の構成(三つのまとめ)を考える。 | ○「学習プラン表」を提示し、学習目標や単位時間ごとの学習活動を知らせ、学習の見通しを大まかにもたせるようにする。 ○初読後、分かったことをノートに箇条書きさせ、内容の概要をつかめるようにする。 ○形式段落を確認し、段落のはじめの言葉(指示語や接続語)や、何度も出てくる言葉などをキーワードとして「本文シート」に線を引き、文章全体の構成を考えさせることで、「要約シート」の意識付けをする。 | (関)学習目標をつかみ、文章を読んで分かったことを発表したり、言葉に着目して文章構成を考えたりしようとしている。 (言)接続詞や指示語、接続詞と同じような働きをもつ語句に注意し、段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読んでいる。 |
| 2 | ○第一のまとめ(はじめ)の要約を行い、微生物の働きを読み取る。 | ○キーワードである「微生物」を文末に置き、形式段落ごとに20字以内で要約させる。 ○各形式段落の要約を参考に、60字以内で要約させる。キーワードを意識させることに重点をおいた「ステップアップカード」を用意し、要約した際の注意点を記入した後、「要約シート」に貼るように促す。 | (読)形式段落ごとの要約を参考に、「微生物」というキーワードに着目して、意味段落の要約をしている。 |
| 3 | ○第三のまとめ(終わり)の要約を行い、筆者の提言をまとめる。 | ○形式段落⑩⑪から、それぞれ重要文(キーワードを含むキーセンテンス)を選び、60字以内で要約させる。キーセンテンスを短くまとめることに重点をおいた「ステップアップカード」を用意し、要約した際の注意点を記入した後、「要約シート」に貼るように促す。 | (読)2つのキーセンテンスを選び、適切な言葉を選択し内容を整理しながら、筆者の提言を要約している。 |
| 4 | ○第二のまとめ(なか)の要約を行い、筆者が述べる具体的な試みを読み取る。 | ○「要約シート」を基に、第一と第三の内容を確認させ、筆者の考えの進め方を考えさせながら、第二のまとめの具体的な試みについて、60字以内で要約させる。その際、字数制限を意識させることに重点をおいた「ステップアップカード」を用意する。 | (読)キーワードやキーセンテンスに着目し、字数を意識して言葉を整理しながら、筆者が述べる具体的な試みを自分なりに要約している。 |
| 5 | ○第二のまとめを要約した「ステップアップカード」を基に、意見交流を行い、各自の要約を推敲する。 | ○各自が要約した「ステップアップカード」を基にして、3～4人のグループでの意見交流を行い、アドバイスし合わせる。 ○意見交流の場では、具体的な試みはいくつあるか、キーワードやキーセンテンスは何か等の確認ができるよう、机間指導する。 ○グループでの意見交流で出されたアドバイスを基に、自分の要約した文を推敲し、「要約シート」に貼るように促す。 | (関)自分と他の要約を比較し、よりよい要約になるにはどうすればよいかを考えようとしている。 (読)文章の展開に即して、文章の構成やキーワードやキーセンテンスを正確にとらえ、内容を整理して、的確に要約している。 |
| 6 | ○学習を振り返り、的確な要約の方法をまとめる。 | ○文章を読み返し、「ステップアップカード」がすべて貼られた「要約シート」に目を通し、説明的な文章を要約する時の注意点(方法)は何かについて、自分の言葉でまとめさせる。 ○まとめとして、「学習プラン表」に自己評価と感想を書くようにする。 | (読)今までの学習を振り返り、説明的な文章を的確に要約する時の方法について、自分なりに考えた言葉でまとめている。 |

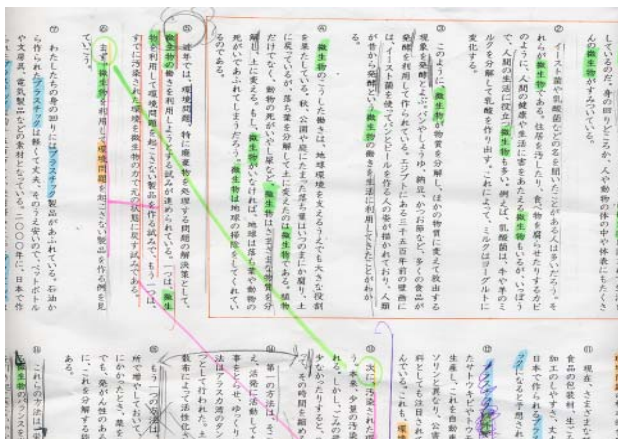
II 実践の概要

ア キーワードや段落相互の関係や役割に着目することが要約する際に意識していく必要があることに気付くために、何度も出てくる言葉や段落のはじめの言葉、指示語や接続語などを意識して文章を読む活動

一読後、形式段落を確認し、何度も出てくる言葉や段落のはじめの言葉など、文章の内容をとらえるために必要だと思う言葉に印を付けさせた。何度も出てくる言葉として、ほとんどの生徒は、すぐに「微生物」を挙げた。印を付けていく中で、⑦段落から⑫段落では、「微生物」があまり見られなくなり、その代わりに、「プラスチック」が見られることに気付いた生徒もいた。段落のはじめの言葉として、「このように」「まず」「だが」「そこで」「次に」「第一の方法は」「もう一つの方法は」「これらの方法は」に印を付けた。

その後、印を付けた言葉を意識させながら、文章全体の構成（【はじめ】【なか】【終わり】）を問うと、「まず」「次に」に着目して、「この部分が具体的な例の説明だ」と気付く生徒が多かった。しかし、【なか】のはじまりと終わりの段落を見付けるのを難しいと感じた生徒もいた。

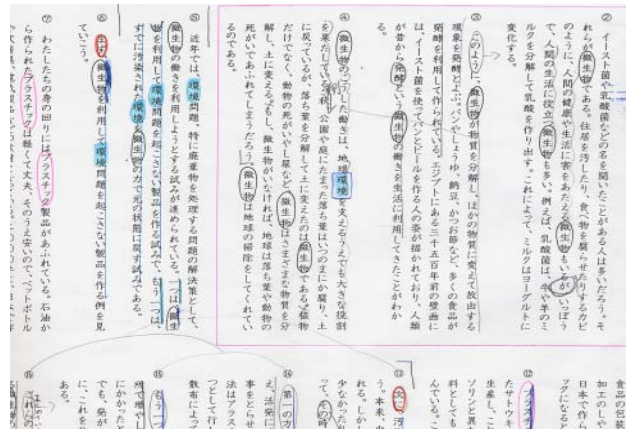
資料1 抽出生徒Aの「本文シート」



抽出生徒Aは、「まず」と「もう一つの方法は」に印を付けた。「⑤段落を読んでごらん。」と言うと、微生物のはたらきを利用する二つの試みがあることに気づき、対応するのは、⑬段落の「次に」だと印を付け、「まず」と線で結んだ。また、⑬段落の「二つの方法」に着目し、⑮段落の「もう一つの方法は」は、⑭段落の「第一の方法は」と並ぶことに気づき、印を付けた(資料1)。

抽出生徒Bは、「まず」「次に」を線で結び、⑤段落の二つの試み、⑬段落の「二つの方法」にも線を付けた。さらに、⑤段落の「環境問題」に着目し、【はじめ】の④段落にある「地球環境」【終わり】の⑰段落にある「環境問題」に印を付けた。机間支援の中で、「どうして『環境』に印をつけたの？」と質問すると、「この文章は、題名にある『微生物』がキーワードだと思うけれど、『環境問題』という言葉が、【はじめ】【なか】【終わり】のそれぞれのまとめの文に出てくるので、キーワードだと思う。この文章は『微生物』と『環境問題』の関係について述べているのだと思う。」と説明した(資料2)。

資料2 抽出生徒Bの「本文シート」



また、「シートに印を付けた言葉は、どんなときに役立つのかな？」という質問をしたところ、「文章をまとめるとき」「大切な段落を見付けるとき」という答えが返ってきた。

このように、抽出生徒Aが【なか】のまとまりをとらえられたことは、何度も出てくる言葉や段落のはじめの言葉に着目した読み方ができたからであろう。抽出生徒Bが「環境問題」というキーワードを探せたことは、接続語や指示語に着目し、段落相互の関係を意識した読み方ができたからであろう。また、この活動は、次の段階で要約する時、キーワードを意識する必要性を気付かせることにもつながった。

以上のことから、文章の内容を正確にとらえるために、何度も出てくる言葉や段落のはじめの言葉、指示語や接続語などを意識して読むことにより、キーワードや段落相互の関係や役割に着目することが重要だと再確認でき、要約する際に意識していく必要があることに気付くことができたと考える。

イ 要約する力をスモールステップで身に付けるために、「ステップアップカード」を活用して、意味段落を要約していく活動

全員の生徒が、【はじめ】のキーワードを「微生物」と答えた。「ステップアップカード」を配布し、形式段落ごとに「微生物」を文末にして要約してみたところ、「微生物」には印を付けているものの、他のキーワードが見付からず、戸惑う生徒が、抽出生徒Aを含め多くいた。その後、「キーワードってどんな言葉かな？」という問いに、「たくさん出てくる言葉」「題名にある言葉」「大事そうな言葉」と答えたが、「微生物」以外のキーワードに着目させるため、「大事そうって？もっと分かりやすく答えてごらん。」と質問した。

すると、抽出生徒Bを含む生徒は、「一つのキーワードにつながっている言葉」「短くまとめている言葉」「繰り返し使われる言葉」「新しく出てくる言葉」と答えた。「微生物」以外のキーワードに印を付けてからは、ほとんどの生徒がそれらを組み合わせ、20字程度の要約を行えた。

②段落で、「人間の生活に害を与える微生物」と「人間の生活に役立つ微生物」の答えが出たが、抽出生徒Bは、「人間の健康や生活に害を与える微生物もいるが」の「が」と、③段落の「このように、～微生物の働きを生活に利用してきた～」の「このように」に着目し、「人間の生活に役立つ微生物」が重要であると説明した。

【終わり】では、⑰⑱の各段落からキーセンテンスに印を付けるよう指示し、「ステップアップカード」を配布した。その後、どうしてその文を選んだかを質問したところ、「文末の表現をみる」「『しかし』や『したがって』の接続語の後の文」「キーワードがたくさん入っている文」「まとめの文は後ろの方にある」などの答えが返ってきた。

抽出生徒Aを含め、最後の文という意識が強かった生徒は、⑰段落のキーセンテンスを「自然の仕組みの中で～まさにその実践の一つである。」を選んだが、他の生徒が「具体的な例が多いのはまとめていないからキーセンテンスではないよ。」と説明し、「環境問題の解決には、～必要がある。」がキーセンテンスであることに気付いた。

次に、字数制限を設けた要約を課題とした【なか】のまとめりでは、キーワードやキーセンテンスを意識しながら各自が要約したが、長い段落の

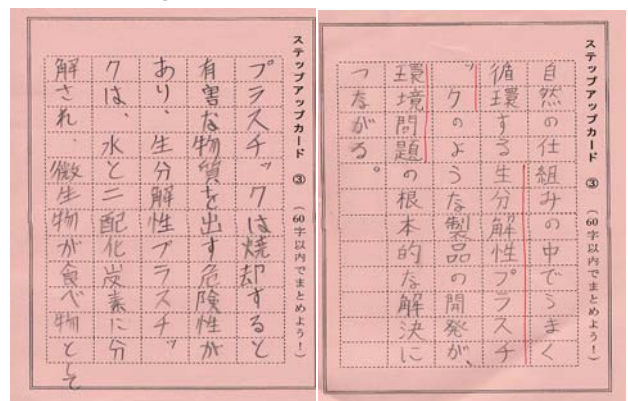
要約ということに抵抗感をもってしまった生徒もいた。キーセンテンスに印は付けているものの、なかなかキーセンテンスを探すところに至らなかった生徒も多くいた。そこで、今までの「要約シート」の記述を振り返らせ、キーワードやキーセンテンスの見付け方を再度確認した(資料3)。

資料3 「キーワードの見付け方」の板書



抽出生徒Aは、キーセンテンスがあいまいで、つながりの悪い文になってはいるが、キーワードを「生分解性プラスチック」「微生物」と見付け、自分なりに「ステップアップカード」に記述できた(資料4)。抽出生徒Bは、キーワードの「生分解性プラスチック」「環境問題」に印を付け、そこからキーセンテンスを二つ探し、それらを付加的な部分を削除して結び付けていた(資料4)。

資料4 A(左)B(右)の「ステップアップカード」
「③字数を意識した要約」の第1段階



このように、①「キーワードに着目した要約」→②「キーセンテンスに着目した要約」→③「付加的な部分を削除しながら字数を考えた要約」というように、スモールステップで要約してきたことは、キーワードやキーセンテンスとは何かを小段階的に理解でき、要約していく際の注意点を具体的に考えることにつながったのであろう。これらのことによって、自分なりに着目する点を明確

にしたので、「まずは書いてみよう」という気持ちが抱けたのではないかと考える。

以上のことから、それぞれの意味段落の要約を「ステップアップカード」を活用して行うことにより、キーワードや段落相互の関係や役割を意識し、スモールステップで要約する力を身に付けることができたと考える。

ウ 文章の内容に即して的確に要約できる力を身に付けるために、意見交流会でアドバイスし合ったり、「ステップアップカード」を貼った「要約シート」で学びの過程を振り返り、要約する際の注意点を考えたりする活動

【なか】の「ステップアップカード」を基に、意見交流会を行った(資料5)。一人一人が活動する場面を保証し、活発な意見交流が行えるよう3～4人のグループにした。それぞれの「ステップアップカード」を提示し、「キーワードは?」「キーセンテンスは?」を話題の中心として意見交流した。多くのグループは、キーワードを「プラスチック」「生分解性プラスチック」「環境問題」「微生物」と挙げた。また、キーセンテンスは、⑧段落「だが」の後、「プラスチックには～危険性がある。」、⑨段落「これを生分解生プラスチックと～分解されてしまう。」、⑩段落「このように」の後、「自然の仕組みの中で～環境問題の根本的な解決につながっていく。」とした。

資料5 「意見交流会の様子」



キーセンテンスを見付けるのがあいまいであった抽出生徒Aは、

意見交流会の中で、他の生徒の要約の中に「環境」があり、「すべてのまとまりに出てくる言葉だから」とアドバイスを受け、「環境」もキーワードであることに気付いた。そして、「3つのキーワードが含まれているのは⑩段落で、『このように』

があるから、この後の文がキーセンテンスだ」と指摘することができた。

また、意見交流中の支援として、『プラスチック』と『生分解性プラスチック』という言葉があるけれど、どちらが大切な?それとも両方大切な?と、各グループに問い掛けたところ、

資料6 抽出生徒Bの「ステップアップカード」



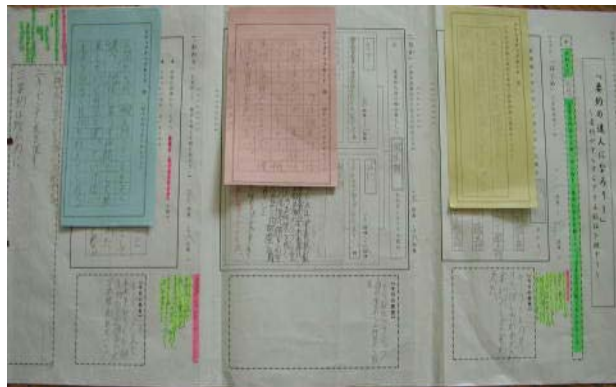
抽出生徒Bは、「⑧段落の『だが』の後ろの『プラスチックは有害な物質を出す危険性がある』もキーセンテンスとして考えた方がいいかもしれない。」と答え、さらに付加的な部分を削除しながら推敲していた(資料6)。

意見交流会で、互いの「ステップアップカード」を比較しながら、

アドバイスし合えたことは、要約する際の注意点を具体的に考えられた上に、自分の要約をさらによりよいものにしようという意欲も高めることになったと考えられる。

まとめの学習として、今までの「ステップアップカード」を「要約シート」に貼ったことを確認し、三枚の「要約シート」をつなぎ合わせた。

資料7 つなぎ合わせた「要約シート」



つなぎ合わせたこと(資料7)で、「要約するとき、段落同士の関係もよく分かる。」とキーワードやキーセンテンス以外に気を付けることができた。また、授業の一言感想で、『「要約シート」が一枚につながったとき、自分は頑張ったんだなと感じた。』と今までの学習に対する達成感を書いた生徒が多くいた。

「要約シート」の最後に空欄を設けておいたと

ころ、生徒たちから、「ここは何を書くの？」という質問が出た。そこで、2つのテーマ①「要約の秘伝を小学六年生に教えよう!」、②「他の説明的な文章の要約をする時にも通用する秘伝をまとめよう!」を黒板に書き、「どちらかを選んで自分なりの言葉で、要約する注意点を書いてみよう」と伝えた。抽出生徒Aを含む多くの生徒は前者を選び、抽出生徒Bは後者を選んだ。

抽出生徒Aは、「①キーワードはたくさん出てくる言葉だよ、②キーセンテンスはキーワードがたくさんある文だよ、～(略)」と書いた。また、抽出生徒Bは、「①たくさん出てくるキーワードには印を付け、その後段落のはじめの接続語に注意しよう! ②まとめる時は具体的な例はカットしよう! ③【はじめ】【なか】【終わり】に共通して出てくる語句は大事なので注意しよう!～(略)」とまとめている。

資料8 「秘伝をまとめる生徒の様子」



生徒の学びによって、さまざまな「秘伝」が出されたが、各自が

考えた「秘伝」を「2人の交流→グループの交流→斉授業(資料8)」と広げていく中で、さらに「秘伝」を増やすことができた生徒が多かった。また、文末を統一したり、工夫したりすることで、注意する内容を熟考することにもつながった。

授業後の感想では、抽出生徒Aは、「要約するのはやっぱり難しかった。でも何回もやっているうちにキーワードの見付け方が分かってきたような感じがしたのでよかった。私も少しは要約ができるかもしれないと思った。」と、抽出生徒Bは、「今までなんとなくやっていたキーワード探しや接続語に注意することが要約するためにちゃんと意味のあることだと理解できた。ずばり筆者の伝えることが要約できたときはとてもうれしかった。次は文章全体に挑戦したい。」と述べた。

今までの学びを振り返らせながら、要約する際に今まであいまいになってしまっていた注意点

を、相手意識を明確にして、一般化させていったことは、教材文の内容理解中心の授業から脱することになった。教科書以外の説明的な文章を要約する際にも通じる方法を身に付けたということは、説明的な文章の学習に対する苦手意識を少なくすることにもつながったであろうと考える。

以上のことから、意見交流会でアドバイスし合ったり、「ステップアップカード」を貼り合わせた「要約シート」を活用して、学びの過程を振り返り、要約する際の注意点を考えたりしたことにより、文章の内容に即して的確に要約できる力を身に付けることができたと考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 接続語や指示語、何度も出てくる言葉について、「本文シート」に印を付けていくことは、それらの語句に着目しやすくなるため、キーワードやキーセンテンスを探す手掛かりとなった。また、要約する際に、それらの言葉を意識することにつながっていた。
- 意見交流会で「ステップアップカード」を互いにアドバイスし合ったことは、今までの「要約シート」や「ステップアップカード」を参考に、スモールステップの学びが再確認できたとともに、具体的なアドバイスを交わせたことにより、さらによい要約にしていこうという意欲も高めることができた。

2 課題

- 意見交流会や一斉授業の中で、少人数の生徒の考えが取り上げられなかった場面があり、生徒への的確な支援という点で課題が残った。今後は様々な学習形態における効果的な支援の方法について研究していきたい。

(担当指導主事 村田 伸宏)

Web検索キーワード

【国語—中 説明的な文章 読むこと 要約
キーワード 文章構成】

〈参考文献〉

- ・村松賢一、花田修一、若林富男 編著 『国語科で育てる相互交流能力 中学校編』 明治図書(2000)
- ・河野 庸介 編著 『絶対評価を踏まえた 中学校説明的な文章の指導法』 明治図書(2002)

